

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献 患者案内システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、先進国を含めた世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。その目標達成に向けて、民間企業の技術やイノベーション力を積極的に役立てていくことが強く求められています。富士通グループは、かねてより、共創を通じて持続的に社会にインパクトを与える成果を生み出す、「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」の実現を目指して、テクノロジーを活用するとともに新たなイノベーションを創造してきました。この活動と、国際社会がSDGsの達成に向けて取り組む方向性は、一致していると認識しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



環境貢献ソリューション

患者案内システム

「患者案内システム」は、病院を訪れる外来患者様に表示盤で待ち順番の目安をお伝えし、スムーズな誘導を行うとともに診療業務の効率を高め、快適な待合スペースを実現するソリューションです。当システムを導入することで、業務効率の改善はもちろん、患者様へのサービス向上、混雑緩和による感染症予防につながります。また、業務改善の結果として、CO₂排出量の抑制にも貢献します。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



患者案内システムによる業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「患者案内システム」は、病院を訪れる外来患者様に表示盤で待ち順番の目安をお伝えし、スムーズな誘導を行うとともに診療業務の効率を高め、快適な待合スペースを実現します。従来、病院スタッフが医師の診察状況を考慮しながら待合室の患者様を診察室に呼び出していたため、スタッフが診察室から離れられない、待合室が混雑し患者様からの診察順番の問い合わせに追われるなどの問題が発生していました。

当ソリューションは、表示盤システムとモバイルシステムで診察室毎の診察状況を表示し、電子カルテシステムと連携して、呼び出す患者様の診察順番をお知らせするとともに、診察室へ誘導します。

これにより、患者様の呼び出し業務の効率化が図れます。また、待合室の混雑緩和により患者様からの問い合わせの減少にもつながります。加えて、業務効率向上の結果として、CO₂排出量の削減にも貢献します。

効果


- ・ CO₂排出量の削減効果：約25% ※富士通フロンテック試算
 - ・ 外来患者の呼び出しに要する業務時間の削減 ※1日当たりの外来患者2,000人、診療日数264日/年、診療時間8時間/日で試算
 - 【導入前】呼び出し業務 約26,400時間/年（看護師が医師の診察状況を考慮しながら外来患者を診察室に呼び出す）
 - 【導入後】呼び出し業務 約4,400時間/年（主に、中待合室での確認作業）
 - 表示盤の選択操作 約700時間/年（医師が端末を操作し、表示盤に該当する患者様の番号を表示）
- ⇒結果、約21,300時間/年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

患者案内システムの導入によって、何故、外来案内業務の負担が軽減されるのか？

- ① 看護師が医師の診察状況を考慮しながら外来患者を診察室に呼び出す必要がなくなります。
- ② 病院スタッフが患者様からの診察順番の問い合わせへの対応が軽減されます。


導入前



〇〇さん、診察室にお入りください。

医師の診察状況を考慮しながら、スタッフが、外来患者を診察室に呼び込んでいた。

導入後



室名	診療科/医師名	診察中	まもなく呼びます			
1	眼科 山田 太郎	1212	1213	1215	1218	
2	脳外科 加藤 二郎	1221	1224	1226	1228	
3	小児科 松本 三郎	1231	1233	1235	1239	
4	耳鼻科 木村 士郎	1241	1245	1246	1249	

次▶患者さんを。(ポチッ)

医師が端末を操作することで、表示盤に該当する外来患者の番号が表示されるため、スタッフの作業負担が軽減された。

お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

ファイナンス&リテール事業本部 第二ソリューション事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>